

今週のメニュー

■トピックス

◇下水道展 2018 北九州に出展しました

塩化ビニル管・継手協会

■随想

◇2002年 レバノン旅行記(11)(終)ーああ勘違いー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇下水道展 2018 北九州に出展しました

塩化ビニル管・継手協会

下水道展 2018 北九州が、7月24日～7月27日に西日本総合展示場で「下水道、暮らしを支え、未来を拓く」をテーマに開催されました。4日間で計31,611人の来場者があり、盛況の内に終了しました（主催：公益社団法人日本下水道協会）。

塩化ビニル管・継手協会は、木目調をベースにし、重厚感のある落ち着いたブースデザインを採用し、会場の中でも目立ったブースで来場者の目を引き付けていました。

ブース内では、①耐震コーナー、②長期寿命コーナー、③大口径化コーナー、④リサイクルコーナーと4部門に分けた展示をしました。



(写真1) 塩化ビニル管・継手協会ブース



(写真2) 耐震配管モデルと動画上映

①耐震コーナー

塩ビ製可とうマンホール継手を使用した下水道本管及び伸縮継手を使用した取付け管の耐震配管モデルを展示しました。

この耐震配管モデルは、可動性を実感できるため、来場者も実際に手で動かし可動性を確認していました。

また、2つの耐震配管モデルの可動性についての動画も上映したため、より詳しく理解できる内容となりました。

②長期寿命コーナー

敷設後 30 年及び 35 年、47 年を経過した下水道用塩ビ管の掘上げ品、25 年～52 年間埋設されていた塩ビ給水管・排水管を展示し、長寿命の塩ビ管を PR しました。

来場者は、新管と同等の検査結果を確認し、塩ビ管の長寿命性に感心していました。



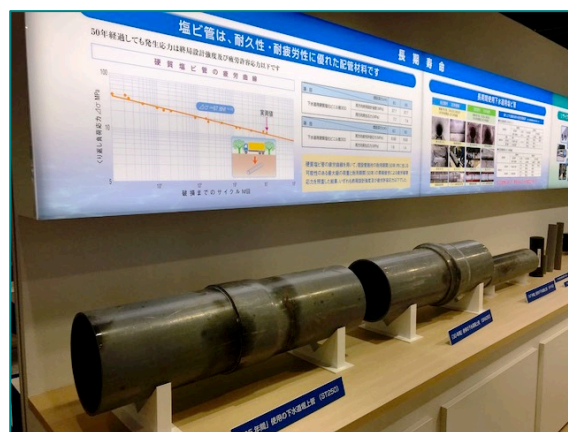
(写真 4) 大口径化コーナー (左 : VU450 の輪切りサンプル、右 : VU150、350、600 の塩ビ管)

④リサイクルコーナー

現在、当協会では「塩化ビニル管・継手リサイクル処理補助制度」を運用しています。

この補助制度は、熊本地震によって廃材となった塩ビ管を製品としてリサイクル処理するために必要な事業に対して、協会が一定の補助をするものです。

この補助制度を利用したリサイクル材を原料にしたリサイクル管を展示しました。



(写真 3) 長期寿命コーナー
(左から 35 年、30 年、47 年間使用した下水道用掘上げ管)

③大口径化コーナー

中大口径 (VU150、350、600) の塩ビ管、大口径管 (VU450) の輪切りサンプルを展示し、実際に手で持ってもらうことで、他管種に比べ軽量である塩ビ管を実感してもらいました。



(写真 5) リサイクルコーナー
(リサイクル三層管、リサイクル発泡三層管、REP - VU 管)

十数年ぶりの九州開催ということで、近隣の方を中心に多くの来場者がありました。当協会のブースにも例年以上の来場者があり、興味を持ってご覧頂くことができました。来年の下水道展は、2019 年 8 月 6 日～9 日まで「パシフィコ横浜」で開催されますので、是非ご来場下さいますよう、お願い致します。

■ 随想

◇2002 年 レバノン旅行記 (11) (終) — ああ勘違い —

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

今回はレバノンで出会った日本人です。
私がベイルートにある政府観光局のオフィスの人と仲良くなり、彼らとノンビリお茶を飲んでいた時のことです。
大学生らしい日本人の若者が2人、やってきました。

若者 「すみませ〜ん。地図下さい」(いきなり日本語)
職員 「?(_)?(_)?」
若者 「分かんないかなあ。地図。マップ」
職員 「どこの地図？」(英語で)
若者 「なんか言ってるぜ。アラビア語は分かんないよ」
私 「彼女、英語で話してるよ」(日本語で)
若者 「なんだ、日本人の人いるじゃない。地図下さいよ」
私 「私はここの職員ではありません」

(中略)

若者 「ええっ、この地図英語だ。日本語の地図下さい。Japanese Version please」
私 「そんなの、あるわけないだろう (-_-;)」

その後、彼らと話していると、仕送りをしてくれている親には内緒で、2人で大学を飛び出し、放浪していることが判明。
定期的に送られて来る仕送りをいいことに、その口座でクレジットカードを作り海外でお金を引き出し、旅行費用にしているらしい。
行き当たりばったりの旅なので、ガイドブックも何も持たず、気が向くとあっちへフラフラ、こっちへフラフラ。
国境や空港で入国 VISA がないと追い返されたこともあるとか。

若者 「俺たち、怪しい者じゃないのに入国 VISA がないからだめっていう国があるんですよ。おかしいじゃないですか」
私 「おかしいのは君たちの頭」
若者 「グローバルな時代なのに…」

そのとき、清掃をするためパレスチナ系の職員が部屋に入ってきました。

清掃 「どこから来たの？」(英語で)
若者 「Japan」
清掃 「ああそう」
若者 「SONY, Panasonic, TOSHIBA, HITACHI, SANYO …」
(いきなり電機メーカーの名前を言い始めました)

清掃 「?(_)?(_)?」
若者 「こっちの人って AIWA が好きですよ。使っている人はあまり見ないけど」
※ AIWA : 2002 年当時、存在した日本の家電メーカーの名前。

私 「?(_)?(_)?」
若者 「だって、どこから来たのって聞かれて Japan っていうと、ほとんどの人が AIWA って言うもん」
私 「ちょっと待て！ アラビア語では“ああそう”とか“分かった”っていうのを

アイワって言うんだよ」

若者 「えっ、そうなんですか (・_・;)」

頼むから、海外に行く場合、最低限の会話くらい勉強してから来てくれ。
それにしても、英語もほとんど話せず、いつも2人で、日本語で押し通しながらよく旅が出来るなあ。

でも、この地域、そのままだと絶対に大きなトラブルに巻き込まれると思うぞ。

これで私のレバノン旅行記は終わりです。

内戦があり怖い国。

日本赤軍が逃げ込んだテロの国。



このようなイメージがあるレバノンですが、実際にはそんなことはありません。

地中海の青い海。

美味しい料理とワイン（レバノン・ワインはヨーロッパでは高級ワインです）

親切な人達。

他の中近東とは異なり時間や約束に正確。

イスラム教のモスクの隣にキリスト教の教会がある不思議国。

そして、「Welcome to Lebanon」と必ず国名を付けて挨拶をする人々。

自分の国に、それだけ愛着と自信があるのでしょう。

今回もご愛読ありがとうございました m(__)m

(終)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)